

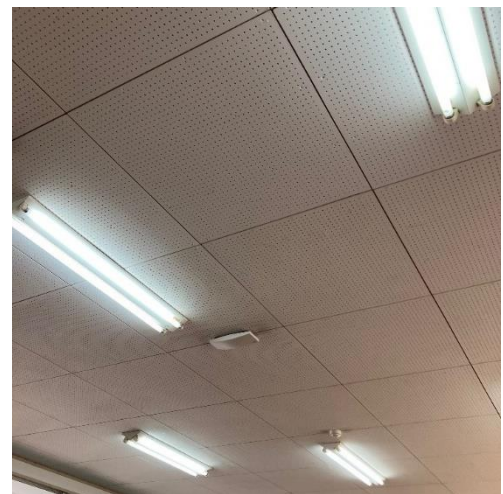
# 2年1組

## 1組1班

SDGsの番号：7、11、13、15

### 節電への協力

2022年7月、政府は7年ぶりに全国の家庭企業に無理のない範囲での節電を要請した。一体なぜ、電力不足という事態が起こっているのか。問題として挙げられているのが、日本の発電方法の主流である火力発電だ。脱炭素の動きが強まっている今、火力発電に向けられる目は厳しいという。電力不足と環境問題の両方を防ぐ。これらを実現するためには、私達の節電への協力が必要だ。とはいえ、全員の協力を得るのは難しい。そこで政府は、市民が節電に協力するよう、ある制度を設けた。各電力会社の節電プログラムに参加し、特定の電気使用量を節約することで、ポイントが支給されるという制度だ。節電が得を生むというメリットを押し出すことが、自主的な節電への協力に繋がるという。しかし、このような制度を政府が設けずとも、自主的に節電に協力する姿勢をとることが、早期に課題を解決するために重要なことだと私達は考える。この機会に今一度節電を検討して欲しい。



## 1組2班

SDGsの番号：7、11、12、13

### 私達にできる身近なこと

現在の日本では、電力不足という問題が起こっている。日常生活において電気を使いすぎていることが、その原因の一つと考えられる。クーラーや暖房器具は使わない時は消し、温度は控えめに設定することで節電になる。また、カーテンを閉めたり厚手のカーテンに取り替えたりすることで直射日光を遮ることができるので、冷暖房の効率がよくなる。食器洗い乾燥機や洗濯乾燥機などは、使う時になるべくまとめて洗うなど機器を動かす頻度を減らすことで消費電力を抑えることができる。冷蔵庫は冬場の設定温度は控えめにし、食材などを詰め込みすぎず、開けている時間を短くすることが大切である。照明はこまめに消して、必要なところだけ点け、太陽光を最大限に利用することが求められる。企業では、廊下やトイレなどに照度センサーや人感センサーを導入しているところもある。一人一人が考えて行動することで、私たちの暮らしがよりよくなっていくと思う。



## 1組3班

SDGsの番号：7、11

### 未来の自分達のために

現在、地球温暖化など環境問題が論じられることが多い。また、電力や化石燃料の不足なども大きな問題である。これらの解決策としてあげられるのが、脱炭素や再生可能エネルギーである。脱炭素とは温室効果ガスの排出量を実質的に0にするために化石燃料の使用を抑え、他の方法でエネルギーを得ることである。脱炭素を成し遂げるために私達個人にもできることはある。例えば、買い物の時にエコバッグを持参することや、使用していないプラグはコンセントから抜くことである。社会として取り組むべき対策は再生可能エネルギーの活用である。例えばバイオマス。動植物などから生まれた生物資源を利用し、発電する家畜の排泄物や林地残材などを有効活用しごみの量を減少させることで、二酸化炭素の減少にもつながる。このように未来の自分達のために必要な行動を一人一人が見つけ行動することが地球温暖化の抑制になり、環境問題の改善につながるだろう。

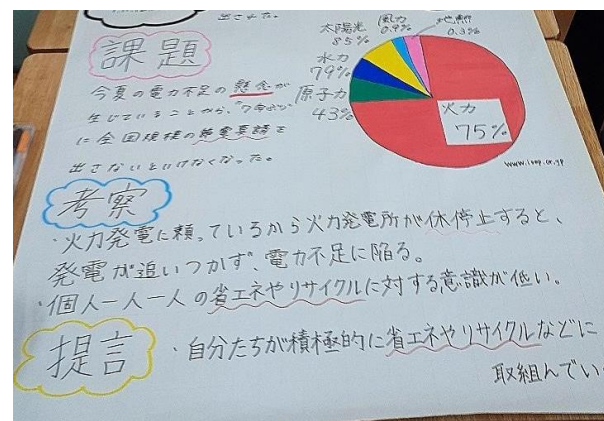


## 1組4班

SDGsの番号：7、11、12、13、15

### 電力不足による影響

今の日本では火力発電所の減少などによる電力不足が問題になっている。現状では2022年に入ってから約2万6,000もの発電所が急停止を繰り返している。日本では火力発電が全体の75%を占めている。だが、火力発電の際に発生する温室効果ガスは温暖化の原因になるため、あまり推奨されない。一方で水力や風力などではダムや風車など幅広い土地を必要とするため、発電の効率が期待できない。そこで注目したいのが自家発電や個人一人一人による省エネだ。太陽光パネルによる発電を行ったり、こまめにスイッチをオフにしたり、公共交通機関をできるだけ使用したりする。また、ごみの量を減らしたり、リサイクルを積極的にしたりすることなど、個人にできる取り組みも色々ある。このようなことかできたら発電量も減らせてCO2も削減でき、電力不足だけでなく地球温暖化の進行も少しは遅らせることができるのではないだろうか。

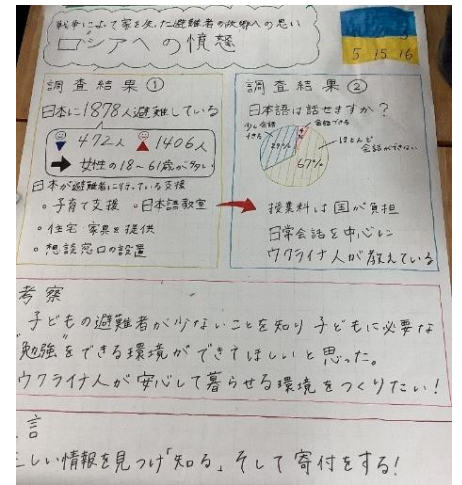


1組5班

SDGsの番号：1、2、3、5、15、16

For ウクライナ

ロシアによるウクライナ侵攻が続いている。これにより多くのウクライナ人の住まいが失われるという問題が起こっている。この現状をふまえ、日本では多くのウクライナからの避難者を受け入れている。そこで、私たちはウクライナの方々の思いを知り、避難者のその後について考えることにした。2022年10月現在日本には2,000人以上の避難者があり、うち15%が子供、75%が大人、10%が高齢者となっている。子どもたちは精神的にも不安であろうし、突然始まった残酷な戦争に対して国民は不安と怒りを隠しきれない。「戻る理由なんてない。あるとすれば、親と夫、そして長女の墓がそこにあるだけだ。」という言葉が心に残った。日本を信じ、避難先に選んでくれたウクライナ人の方々に安心してのびのびと暮らせるような場所を提供することが大切だと思う。ウクライナが完全復活するその日まで、現状について知り、できることを考えて実行し、向き合っていかなければならない。決して他人事ではないということに気付かされた。

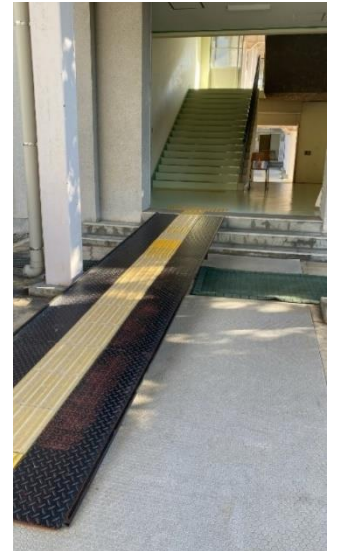


1組6班

SDGsの番号：3、16

心のバリアフリー

高齢者や障がい者が街中で困っているところを見かけたことはあるだろうか。見たことがある人はそれを助けたりしたことはあるだろうか。助けるということは難しくてなかなかできないという人もいるかと思う。日本では「心のバリアフリー」が足りないというのが現状だ。2018年11月に施行された改正バリアフリー法では、「共生社会の実現」「社会的障壁の除去」が明記され、国民の義務として、障がい者や高齢者が公共交通機関を利用して移動するために必要な支援を行うことが明文化された。だが本来は「法があるから手伝わないと……。」ではなく、法がなくても実践できることを目指すことが大切だ。私たち高校生は高齢者や障がい者が街でどんなことに困っているかなどに気をかけてみたり、自分の祖父母などと積極的に関わってみたりして、身の周りに何が足りないのか、また何が必要なのかなど、周りの人のことを考え、寄り添うことのできる人になるべきだ。

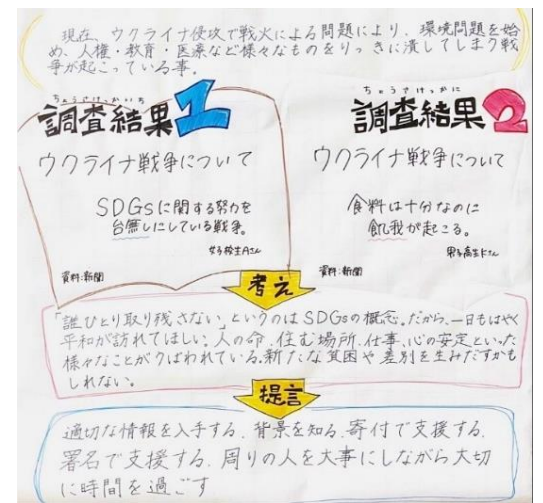


1組7班

SDGsの番号：16

ウクライナ戦争

現在、ロシアのウクライナへの侵攻により、戦火が絶えない状況にある。たくさんの人々が戦死し、建物がなくなったために暮らせる場所がない人も多くいる。「建物が無くなる」ということは、必要最低限の生活ができなくなるということであり、電気やガス、水道なども使うことができない状況になるということだ。今の時代、自分たちの生活はこれらによって支えられている。もしこれらがなくなったら、暮らし続けることがほぼ不可能な状況になる。ウクライナの人々の苦しみがいかに大きいかが想像できる。これらを解決するため、私たちにできることとして、ボランティア活動に協力することがあげられる。例えば、日頃から募金活動を行ったり、寄付付きの商品購入を通して支援したりすることである。ウクライナ支援のためのチャリティ T シャツの購入や、ウクライナの子供たちの命を守るための寄付を呼びかける団体もあつたりする。自分たちも、身近なことから取り組んでいこうと思う。



1組8班

SDGsの番号：1、6、10、11、16

私達に出来ること

ロシアによるウクライナ侵攻が続けられ、ミサイル攻撃等による死傷者は、2022年8月22日現在、約13,477人にのぼり、そのうち子供の死傷者数は1000人をこえている。罪のない人や子供の人権が踏みにじられているこの現状を見逃していいのだろうか。私たちにできることは、今起きている状況の正しい情報を入手することである。正しく現状を理解することで、できることが変わってくるだろう。普段生活している中で色々なことが出来る。一つの方法は、寄付付きの商品を購入することだ。ビール等の商品に(ウクライナ支援特別 version)と表示して販売されているものもある。そういったものを買ってだけでも、ウクライナへの支援に繋がる。その他にも SNS 等で(# No war)といったタグを投稿し、意思表示することも大切だ。このように平和のために私達にできることはまだまだあると思う。お金だけではなく、心理面でもサポートし、少しでも平和に近づけるようにしていきたい。

